

<2021年5月23日(日)の医療部長ピーター・ホワイト少佐のメッセージ>

ペンテコステサンデーを迎えました。使徒言行録 2:1-21 を読みましょう。キリスト教のカレンダーにおいてペンテコステはとても大事な祝祭日であり、それをテーマに多くのメッセージが語られます。聖霊がわたしたちひとりひとりに与えてくださる力を、期待をもって待ち望みましょう。イエスが天に上げられた後、弟子たちは毎日集まり、大きな期待をもって祈りを捧げました。約束された聖霊を待ち望んでいたのです。弟子たちが一つになって祈っていると聖霊がくだりました。旧約聖書では火と煙は神の臨在をあらわし、風は神の吹く息をあらわしています。使徒言行録第 2 章の出来事は、イエスが聖霊を通して力強く弟子たちに臨んだことを示しています。その時ちょうど五旬節の祭を祝うために世界各地から人々がエルサレムに集まっていました。その当時知られていたいろいろな海外の地名が使徒言行録に記されています。それらの地域のほとんどで当時の国際語のギリシャ語が話されていました。ところが、聖霊に満たされた弟子たちは、それらの人々の現地に固有の言葉で語り出したので、人々は大いに驚きました。ペトロは驚いている人々に旧約聖書のヨエル書の「終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者たちは幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしためにも、そのときには、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する」という言葉を引いて説明しました。こうして、神の計画が成就したのでした。それは、ユダヤ人と外国人の区別なく、すべての人に救いをもたらされるという計画です。ユダヤ人だけでなく、すべての異邦人が救いに選ばれたのです。それは、わたしたちの救いに関わるものです。救世軍では創業時代に、聖霊に満たされることが非常に重視されました。聖霊に満たされた救世軍人たちは、次々に人を救いに導き、救世軍の働きは爆発的に成長して、だれもそれを止めることができませんでした。いまの時代はどうでしょう？ わたしたちが聖霊に満たされる時、炎の舌が現れたり異言を語ったりすることはないと思います。しかし、わたしたちがすべてを神に献げ、聖霊に満たされ、聖霊の力によって生きることを、神は願っておられるのです。私が所属していた小隊では1995年に使徒言行録第2章の学びをすることになりました。その結果、戦友と下士官が熱心に聖霊の満たしを祈り求めるようになりました。ある日ついにそれが実現し、戦友たちは聖霊に満たされ、さまざまなるしと不思議が行われ、小隊が急速に成長しました。翌年の1996年、6人の戦友が献身して士官学校に入校しました。その一人が私でした。あの時、自分に何が起きたのかを説明するのは難しいですが、当時と同じように聖霊によって心が燃やされることを、私は願っています。聖霊に満たされるために、不思議な現象を追い求める必要はありません。ある人はダマスコ門外のパウロのような劇的な体験をするかもしれません。ある人は非常に静かな神様との個人的な体験を持つかもしれません。どうか、それぞれの仕方でも祈り求め、聖霊に満たされたいと思います。